

施設の自己評価（令和6年度）

あいわこども園
園長 増田栄子

令和6年度に実施した『保育士の自己評価～「子どもを尊重する保育」のために～』の結果を元に、「保育の質」の観点より園の良い点・改善点を洗い出し、改善に向けた取り組みを整理しました。

I. 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり

- ・「早くやって。できないなら後ろに行って。」は、子どもが否定されていると感じてしまうため、自己肯定感を育む言葉がけを心掛ける。
- ・「子ども同士のトラブルが起きたとき、子どもたちの言い分を聞かず、一方的に判断を下す。」は、子どもの気持ちに寄り添って、話を聞く対応をする必要がある。

(課題)

大人と子どもの上下関係ではなく、子どもの月齢や年齢にかかわらず、一人の人格者として対等な立場で接することは子どもとの信頼関係を構築する上で、とても大切な事だと考えなければならない。

II. 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ

- ・「集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かないこどもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。

(課題)

子どもたちに行動を強いる関わりでなく、自分自身で考え、行動する力を育むことができるよう、肯定的な言葉がけをして子どものやる気を育てる。

III. 罰を与える・乱暴なかかわり

- ・子どもを注意する際に、「だめよ！」と行って子どもの手をたたくという行為は、子どもが真似てしまうこともあるので、丁寧に言葉がけにより納得して自ら行動できるよう配慮する。

IV. 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり

- ・保育者は自らの感性や価値観を振り返りながら、子どもや家庭の多様性を十分に認識し、それらを積極的に認め、互いに尊重し合える雰囲気をつくり出すことに努めることが求められる。

V. 差別的なかかわり

- ・子どもが将来、性差や個人差などにより人を差別したり、偏見をもったりすることがないように、人権に配慮した保育を心がけ、保育士等自らが自己の価値観や言動を省察していくことが必要である。

(園全体として今後の課題)

- ・不適切な保育を未然に防ぐために、大人同士のコミュニケーションを円滑にし、集計結果をもとに改善に向けたミーティングを行っていきます。
- ・保育者と園児は、「大人と子どもの関係」ではなく、人格者同士の関係でお互いを尊重できるよう、接することが大切です。